



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 166

2026. 春

- ▶ CLOSE UP
市町村担当者が語る
日本赤十字社との連携
- ▶ TOPICS
令和8年度事業計画と予算の概要
- ▶ Information

日赤あいち

広報誌

CLOSE UP

市町村担当者が語る
日本赤十字社との連携



Information インフォメーション

日本赤十字豊田看護大学 5・6・8月オープンキャンパス開催!

日本赤十字豊田看護大学では、5月30日(土)・6月27日(土)・8月19日(水)にオープンキャンパスを開催します! 5月開催分は受験生を対象として入試対策講座を実施、6月開催分では高校生の保護者を対象として、学生サポート制度などの説明とともに、本学の最新の学修教材のデモ見学などを行います。8月開催分は中高生を対象として赤十字の看護大学の特色を活かした災害看護学の看護体験や学生の国際交流体験発表、在学生と直接話せる個別相談コーナーやキャンパスツアーがあります。詳細は本学ホームページをご覧くださいね。

皆様のご参加を心よりお待ちしております!



日赤豊田 オープンキャンパス 検索



「やごと日赤ふれあいひろば2026」を開催します!

5月16日(土)に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を会場に「やごと日赤ふれあいひろば2026」を開催します。昨年也大盛況となったこのイベントは、当院や日本赤十字社の活動など、体験や展示を通してたくさんの方に学んでいただく機会になっています。今年も、医療機器の展示や体験、健康チェック、お菓子作り模擬体験など、大人から子どもまでお楽しみいただける内容を企画しています。ご家族やお友達とぜひお気軽にご来場ください!



活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ イーライン株式会社 様
- ▶ 中西電機工業株式会社 様
- ▶ 株式会社センテナリー 様
- ▶ 株式会社大日 様
- ▶ 株式会社名古屋銀行 様
- ▶ 株式会社F&Cホールディングス 様

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市中区東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和8年4月1日

PRESENT

ハートラちゃん
ぷくぷくシール

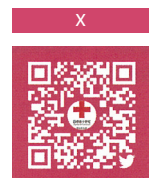
ハートラちゃんのぷくぷくシールを
抽選でプレゼント!

10
名様



Mail: aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax: 052-971-1590
郵送: 〒461-8561 名古屋市中区東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

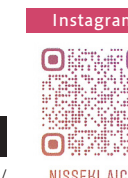
明記事項
①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など
締切/令和8年6月30日必着



活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち 検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



Instagram

NISSEILAICHI



令和8年度事業計画と予算の概要

令和8年度における日本赤十字社愛知県支部の事業計画および一般会計歳入歳出予算についてご報告します。

事業計画の概要 (主な事業の抜粋)

◆災害救護事業

大規模災害に対して迅速かつ適切に医療救護活動を行うため、救護員や災害医療コーディネーター等の養成に努めるとともに、災害救護物資の整備充実に取り組みでまいります。また、市町村や関係機関の協力のもと、地域住民の自助力・共助力向上や市町村の推進する防災・減災の取り組みを支援することを目的とした住民参加型訓練を実施するなど、防災・減災分野の活動も展開していきます。

◆医療事業

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の両病院が災害時には医療救護活動を、平時は地域の中核病院として、救急医療・高度医療及び災害医療などの分野における機能強化を図り、地域のニーズに応じた医療の提供に努めてまいります。

◆救急法や健康生活支援講習等の普及

災害時の応急手当、避難所生活に役立つ内容の講習、子どもの事故予防など、各種講習の実施に努めます。普及の担い手となる指導員の増強については、令和8年度は救急法、水上安全法、健康生活支援講習の講習指導員養成を実施します。

◆赤十字ボランティアの活動と育成

講習指導員資格を取得した指導員による講習普及や、赤十字防災ボランティア・地区リーダー、赤十字防災セミナー指導者を中心にした防災・減災の知識・技術を普及する活動、子ども食堂をはじめとした子ども・子育て世帯を支援するための取り組みを推進してまいります。

◆青少年赤十字の育成と普及

学校教職員及び教育行政機関の理解と協力を得ながら、メンバーの増強、指導者の養成、リーダーシップ・トレーニング・センターの開催、海外青少年赤十字メンバーとの交流、防災教育等各種事業を推進してまいります。

◆社会活動

市町村・企業・団体と連携し、地域における社会課題の解決に向け、「子ども・子育て世帯の支援」「高齢者健康生活支援」「多文化共生社会の実現に向けた事業の推進」「災害時の被災者支援」を重点分野として様々な事業に取り組んでいます。令和8年度においても市町村・企業等との連携を強化してまいります。

◆血液事業

県内の医療機関からの要請に応え、より安全で良質な血液製剤を安定的に供給するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進や、将来的献血を支える若年層への理解促進を図るための献血推進広報を積極的に実施してまいります。

◆国際活動

世界各国・地域の赤十字・赤新月社が実施する災害対策事業や保健医療支援事業等への協力を行ってまいります。また、日本赤十字社の国際医療救護拠点病院に指定されている日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて緊急の救護要請に応えられる体制整備に努め、発災直後の緊急支援から中長期にわたる復興支援や開発途上国における保健医療支援に取り組みます。

※事業計画の詳細については、日本赤十字社愛知県支部ウェブサイトをご覧ください。

一般会計歳入歳出予算の概要

歳入		
内訳	予算額	
活動資金収入	1,107,000,000円	85.6%
委託金・補助金及び交付金収入	8,532,000円	0.7%
繰入金収入・資産収入・雑収入	24,766,000円	1.9%
前年度繰越金	152,926,000円	11.8%
合計	1,293,224,000円	100.0%

歳出		
内訳	予算額	
①災害救護事業と救護看護士の養成に	394,260,000円	30.5%
②救急法や健康生活支援講習などの普及に	45,775,000円	3.5%
③赤十字ボランティアの活動と育成に	55,247,000円	4.3%
④青少年赤十字の育成と普及に	46,628,000円	3.6%
⑤社会福祉事業などに	45,954,000円	3.6%
⑥血液事業の普及啓発に	5,391,000円	0.4%
⑦国際的な活動に	10,685,000円	0.8%
⑧活動資金募集のために	76,367,000円	5.9%
⑨赤十字の普及・広報活動のために	41,766,000円	3.2%
⑩赤十字病院救急医療体制の整備に※1	146,837,000円	11.4%
⑪市町村における赤十字活動に	121,400,000円	9.4%
⑫全国的な赤十字活動に	125,550,000円	9.7%
⑬支部の運営に	177,364,000円	13.7%
合計	1,293,224,000円	100.0%※2

※1 使途が指定された活動資金による事業を含みます。
※2 端数処理の関係で構成比の合計に差があります。



皆さまのご寄付が赤十字の活動を支えています。

赤十字は、人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めるという「入道」の理念のもと世界191の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを活かして活動する人道的組織です。

日本では、西南戦争での戦時負傷者の救護活動を契機に組織され、災害救護活動、国際活動、救急法などの普及、赤十字ボランティアや青少年赤十字事業や赤十字病院の運営、献血などの血液事業、看護師の養成など幅広い分野で事業を展開しています。

こうした活動は、皆様からお寄せいただく活動資金のご寄付によって支えられています。この赤十字の活動の充実のため、ご寄付のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付のご協力は、このうちよ銀行専用の振込用紙で、最寄りの郵便局窓口からご送金をお願いいたします。送金後、郵便局の窓口で渡される半券(振替払込請求書兼受領証)をもって日本赤十字社の受領証に代えさせていただきます。ご理解の程よろしくお願いいたします。



子ども・子育て支援事業
「夏休みみんなの空き地プロジェクト」

(ご注意)
・この用紙は、郵便で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折曲げたりしないでください。
・この用紙は、ATMでは使用できません。
・この払込書は、ゆうちょ銀行又は郵便局のゆうちょ窓口にお預けになるときは、引換局に預り証を必ずお預け取りください。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたお名前、お住まい等は、加入者に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるもので、大切に保管してください。
※この受領証をもって日本赤十字社の受領証に代えさせていただきます。なお、免税証明としてご利用いただけます。
振込いただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づき寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づき寄付金に該当します。

【お問い合わせ先】
日本赤十字社愛知県支部
赤十字会員課
(電話)052-971-1596

この場所には、何も記載しないでください。

市町村担当者が語る日本赤十字社との連携

日本赤十字社愛知県支部では「子ども・子育て世代の支援」、「高齢者健康生活支援」、「多文化共生社会の実現に向けた事業の推進」、「災害時の被災者支援」を重点分野とし、様々な自治体と連携しながら地域課題の解決に向けた取り組みを展開しています。今回は一緒に事業を進めている市町村の担当者にお話を伺いました。（※所属は令和8年3月時点です）

高齢者健康生活支援
移動支援から広がる笑顔と交流の場



▲日進市 福祉部 地域福祉課 櫻木さん

Q市として困っていたことはどのようなことですか。

A 日進市の人口は現在増加傾向にあるものの、同時に高齢者人口も今後2040年まで増加していくことが予想されています。すでに、高齢者を取り巻く課題が多様化し、支援の担い手不足など、従来までの体制では対応しきれない課題が少しずつ顕在化しています。そのため、課長に向けてより良い支援の形を構築することが現在の目標となっています。

「健康寿命を延ばし、高齢になっても自分らしく元気に暮らす」ことを掲げる日進市の考えと、「健康の維持・増進に寄与する」という赤十字の事業目的が一致し、連携につながりました。

豊橋市

多文化共生社会の実現に向けた事業の推進
日本語教育支援とキャリア教育支援で
広がる「可能性と選択肢」



豊橋市と当支部は2025年2月17日に包括連携協定を締結し、本協定に基づき、外国人市民の日本語教育支援と、外国にルーツのある生徒たちのキャリア教育支援を進めています。

Q市として困っていたことはどのようなことですか。

A 豊橋市は全国でも外国人市民が多い地域ですが、多文化共生の取り組みは、限られた人員や予算の中で優先順位を上げにくい状況がありました。しかし近年、外国人市民は2万人を超え、優先率6%を占めるまでに、国籍も約80か国に広がっています。外国人市民への行政サービスは「特定の部局だけでなく市役所全体の課題」という認識が深まってきました。日によっては市役所窓口に並ぶ方の多くが外国人市民ということも珍しくなくなっています。

そうした中で、特にニーズが高かったのが日本語学習支援です。NPO法人豊橋ブラジル協会が実施する就労のための日本語教室では、夜勤や子育てなどで欠席した学習者が授業に追いつけず、学びの継続が難しくなることが課題でした。加えて、外国にルーツのある高校生は義務教育後に支援が届きにくく、情報不足により進路の選択肢が狭まるケースもありました。

Q日赤との連携で解決できたことはどのようなことですか。

A 一つ目は、日本語教室の「学びを途切れさせない仕組みづくり」です。授業の録画・アーカイブ化に必要な資材を赤十字が支援したことで、欠席した場合でも自習や復習ができる環境が整いました。



▲豊橋市 市民協創部 多文化共生・国際課 白藤さん

Q市民からはどのような意見があったのでしょうか。

A 日本語教室の学習者からは、録画・アーカイブの整備により「安心して学びを続けられる」「欠席しても授業内容を振り返るのに助かる」といった声が多く寄せられました。キャリア教育では、生徒から「普段会えない方の話が勉強になった」「教員からは「外部講師」によって良い緊張感が生じた」との反応があり、支援の効果が実感されています。

「縦割り」を超えた連携を、研修から実践訓練へ

大山市と日本赤十字社愛知県支部は、地域共生社会の実現に向けた包括連携協定に基づく取り組みとして、日赤から赤十字病院の医療従事者と支部職員をスタッフとして派遣し、「災害時における保健医療福祉部門研修」を実施しました。本研修は、災害時の保健・医療・福祉活動の基本を、過去の災害対応事例も踏まえて学び、部門間の協力を具体的に整理することを目的としています。研修と訓練を一体的に捉え、令和7年度は研修、令和8年度は実践訓練を予定しています。

Q市として困っていたことはどのようなことですか。

A 災害対応は、防災部門だけで完結するものではありません。しかし実際には、福祉・保健など関係部門との「横のつながり」が十分ではなく、発災時における各部門の動き方の全体像共有が課題でした。また、災害対応に直接関わる部署以外の職員にとっては、防災計画に触れる機会が限られ、自部署の役割や災害時業務を具体的に想像しづらい面もありました。そのため組織として「共通言語」を持ち、「自分事」と受け止め、迷いなく動ける体制づくりが求められていました。

Q日赤との連携で解決できたことはどのようなことですか。

A 今回の研修では、大山市健康推進課・福祉課・防災交通課が一緒に参加し、講義とグループワークを通じて「初動における連携体制」を具体的に整理しました。日赤との協力は、ただの研修実施ではなく、市の思いを実現可能な形に落とし込み、外部の知見やネットワークも活かしながら学びの設計を行う伴走支援として機能しました。災害に対するノウハウを持った外部の組織が開いて研修することで、参加者にはいい意味での緊張感がありました。



▲大山市 健康福祉部 健康推進課 河村さん(左)、福祉課 阪下さん(中央)、市民部 交通課 渡辺さん(右)

Q参加者からはどのような意見があったのでしょうか。

A 参加者からは、「研修をきっかけとして、福祉部門や健康部門でやらなければならないことが明確になった」「担当部署だけではなく全庁的に、取り組まなければならないこと、他機関との連携の大切さをあらためて実感しました」といった声がありました。研修の先に見据えるのは、市職員だけでは完結しない災害対応を、市民の力も含めて成立立たせることです。小さな支援を積み重ね、地域で支え合う土壌を広げていくことが、災害時の力になります。

令和8年度の実践訓練では、より現実に即した訓練設計や、課題を可視化して改善につなげる仕組みづくりを通して、地域全体の備えを歩を進めていきます。



これからも愛知県支部は自治体や企業とより一層連携を強化し、地域ニーズに沿った事業を推進していきます。

子ども・子育て世代の支援 放課後児童クラブ待機児童の解消に向けた新たな一歩

西尾市と当支部は2024年10月23日に包括連携協定を締結しました。本協定に基づき、放課後児童クラブの待機児童解消に向けた取り組みを進めています。

Q市として困っていたことはどのようなことですか。

A 近年、子育て世代を取り巻く環境が大きく変化し、共働き家庭が増加しています。それに伴い、子育て支援におけるニーズが多様化しており、今までの支援体制では対応しきれない状況になっていることがありました。私たちが支援課が担当する「児童クラブ」は学校クラブによって利用の偏りが生じ、利用希望者が定員を大きく上回り、待機になってしまいうクラブがある一方で、定員に余裕のあるクラブもありました。しかし、小学校区や距離の制約から簡単に別のクラブへ通うことができません、空きのあるクラブがあるにもかかわらず、待機児童が発生してしまうという現実がありました。

Q日赤との連携で解決できたことはどのようなことですか。

A こうした状況に対し、待機児童が一定数(10人以上)発生した児童クラブでは、空き教室等を活用して「無料で見守りを行う「居場所事業」を実施しました。しかし、学区によって低学年の児童が数人待機となる状況もあり、低学年の児童はなんと児童クラブに入会させたいと赤十字に相談したところ、送迎車両を配備していただき、空きのある児童クラブへの「移送」が可能になりました。車両は4月以降は毎日稼働し、学年によって下校時刻が異なる日は2往復することもあり、移動時間は概ね5〜10分とし、子どもたちの負担を抑えながら、必要な家庭に支援が届くよう工夫しています。市だけでできることには限りがありますが、赤十字とつながれたことで、支援できる幅が広がりました。

Q市民からはどのような意見があったのでしょうか。

A 保護者からは「子どもを移送してまで預かってくれるのが本当にありがたい」「自分の子どもが移送中の車内で、下級生を心配し声をかけているのを知りうれい」といった感謝の声が寄せられています。子どもたちからは「他の学校でも友達が行くことが楽しみたい」と、別の放課後児童クラブに行くことをむしろ前向きに提案している声も。移送車両での移動そのものが「ちょっととした小旅行」のような特別感になり、運転手との「今日どうだった?」といった会話が安心感につながっている、という保護者の声も届いています。「赤十字」募金や献血、医療や海外支援というイメージばかりがありましたが、今回の連携を通して、「地域の課題にも共に寄り添い解決策を考えてくれる存在」という認識が変わりました。



▲西尾市 子ども部 子育て支援課 本田さん(右)、原田さん(左)

県立旭丘高校 美術科生徒さんの作品を院内で展示

日赤名古屋第一病院で令和9年2月まで

日赤名古屋第一病院では、東棟2階リハビリテーション室付近の廊下壁面に、県立旭丘高校美術科2年生の生徒さん8名によって描かれた作品を展示しています。院内での作品の展示は平成17年度から同校にご協力いただき毎年行っており、今年も生徒さん一人ひとりの豊かな感性が発揮された力作をお届けいただきました。

同校美術科主任の山田 純嗣先生は「本展示は、風景を描いた日本画と人物モデルによる油彩画の作品です。生徒たちは基礎的な描写力を土台に、対象と向き合いながら試行錯誤を重ね、それぞれの感性を生かした個性的な表現を目指しました」と、完成までの様子を語ってくれました。

今回の8作品の展示期間は令和9年2月までの予定です。それぞれの作品には、描いた生徒さんからのコメントも添えられています。瑞々しさに溢れた作品は、院内で過ごす患者さんやご家族に癒しのひとときを与えてくれることでしょう。お立ち寄りの際はぜひともご覧ください。



クレジットカード
Amazon Pay PayPay
＼ でのご協力はこちら ＼

この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。
機会がございましたら、ご利用いただければありがたく存じます。

99 名古屋 払込取扱票

口座 0086011 金額 732 金 千 百 十 五 千 百 十 四

振替口座 0086011 金額 732

日本赤十字社 愛知県支部

郵便番号 460-0001 電話番号 052-732-1111

※1 2000円以上の寄付金をいただいた方には事業報告書と伝票をお送りします。2000円以上の寄付の方で、伝票が不要の方は「伝票不要」をお付けください。

※2 赤十字からの振替

日赤かいせい4

振替払込請求書兼受領証

口座 0086011 金額 732

日本赤十字社 愛知県支部

振替口座 0086011 金額 732

※1 2000円以上の寄付金をいただいた方には事業報告書と伝票をお送りします。2000円以上の寄付の方で、伝票が不要の方は「伝票不要」をお付けください。

※2 赤十字からの振替

日赤かいせい4